

(7) 花き及び地域特産農作物

ア 花き

作付（収穫）面積は減少傾向

東北地域における平成19年産の花き作付（収穫）面積は、切り花類は1,913haで岩手県、秋田県、山形県で前年を上回った。鉢ものの類は130haで青森県は前年を下回ったものの、山形県、福島県では前年を上回った（表Ⅱ-35）。

表Ⅱ-35

平成19年産 花き作付（収穫）面積（東北）

（単位：ha）

|     | 切り花類      |           | 鉢物類       |           | 花壇用苗もの類   |      |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------|
|     | 前年産<br>対比 | 前年産<br>対比 | 前年産<br>対比 | 前年産<br>対比 | 前年産<br>対比 |      |
| 青森県 | 125       | ...       | 22        | 96%       | 11        | 109% |
| 岩手県 | 545       | 101%      | 22        | ...       | 15        | 81%  |
| 宮城県 | 175       | 96%       | 22        | ...       | 27        | 104% |
| 秋田県 | 138       | 104%      | 5         | ...       | 12        | 103% |
| 山形県 | 409       | 103%      | 11        | 117%      | 31        | 104% |
| 福島県 | 521       | 99%       | 49        | 101%      | 24        | 102% |
| 東北計 | 1,913     | ...       | 130       | ...       | 119       | 100% |
| 全国計 | 17,230    | 99%       | 2,047     | 98%       | 1,685     | 99%  |

資料：農林水産省統計部「花き生産出荷統計」

注：切り花類、花壇用苗もの類は、作付面積。鉢ものの類は、収穫面積。

19年産の花きの主な品目の作付面積は、表Ⅱ-36のとおりである。

表Ⅱ-36

花き主品目の作付面積の状況（東北）

| 区分        | 県名（面積、全国順位）                                |
|-----------|--|
| きく        | 福島県（128ha、8位）、岩手県（124ha、9位）、宮城県（105ha、13位） |
| ばら        | 山形県（21ha、4位）、宮城県（11ha、13位）                 |
| 宿根かすみそう   | 福島県（55ha、2位）                               |
| トルコギキョウ   | 山形県（29ha、5位）、福島県（28ha、6位）、秋田県（12ha、12位）    |
| ゆり（球根切り花） | 岩手県（23ha、11位）、福島県（20ha、12位）、山形県（14ha、15位）  |
| アルストロメリア  | 山形県（13ha、3位）                               |
| パンジー      | 山形県（10ha、12位）                              |

資料：農林水産省統計部「花き生産出荷統計」

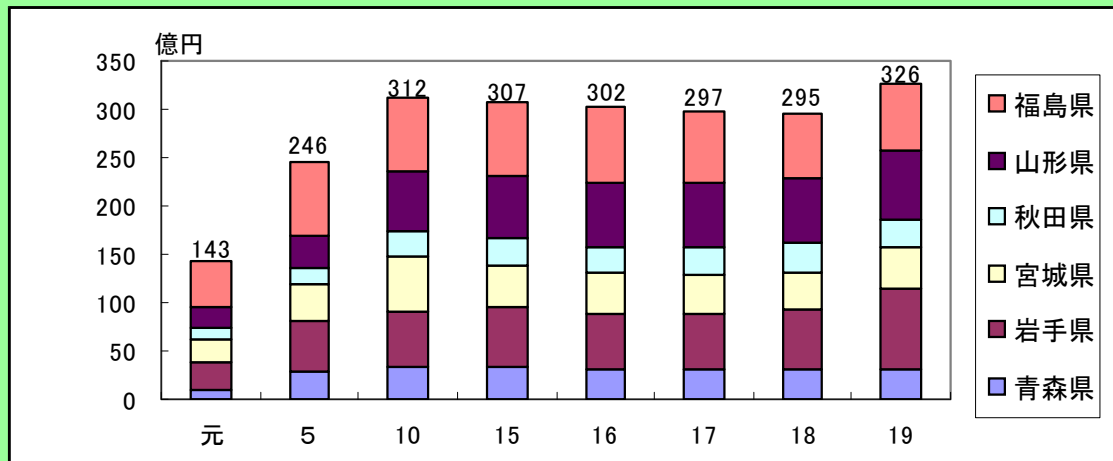
## Ⅱ 農業・食品産業の持続的な発展

### 産出額は前年比11%増の326億円となった

東北地域の花きの産出額（花木、地被植物は除く）は、近年の経済不況等による需要減少、価格低迷により300億円程度で推移していたが、19年は増加に転じ、前年比10.5%増の326億円となった（図Ⅱ-19）。

図Ⅱ-19

花き産出額の推移（東北）



資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計」

## イ たばこ

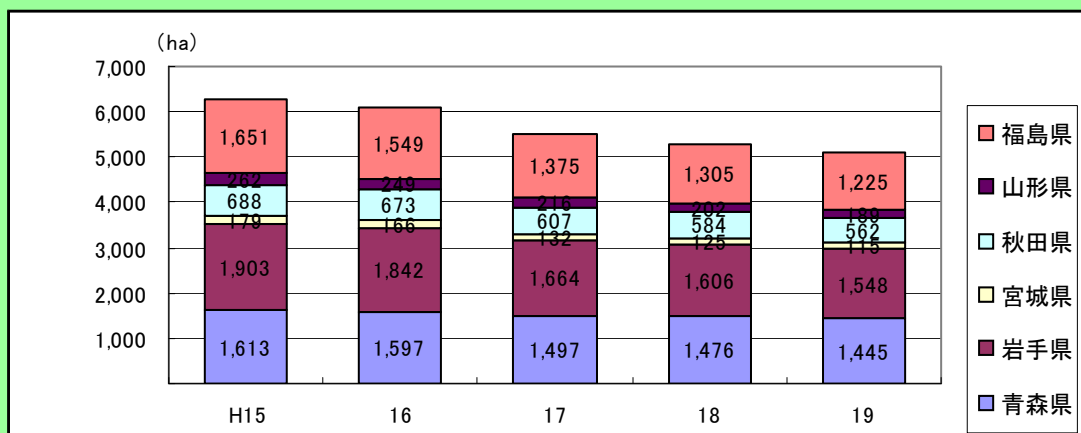
### 希望廃作が実施され生産は減少しているものの、依然として主要な産地

たばこを取り巻く環境は、国民の健康意識の高まりや喫煙規制の強化等により、製品たばこの総需要の減少傾向が今後も見込まれることから、一定要件の農家に対して希望廃作の募集が17年産で実施され、全国で約2,300haが廃作された。

東北における葉たばこの19年産の収穫面積は、希望廃作の実施等により5,084haとなり、収穫量も1万1,893トンで、前年産を下回ったものの、全国の32%（収穫量：3万7,803トン）を占める主要な産地である（図Ⅱ-20、図Ⅱ-21）。

図Ⅱ-20

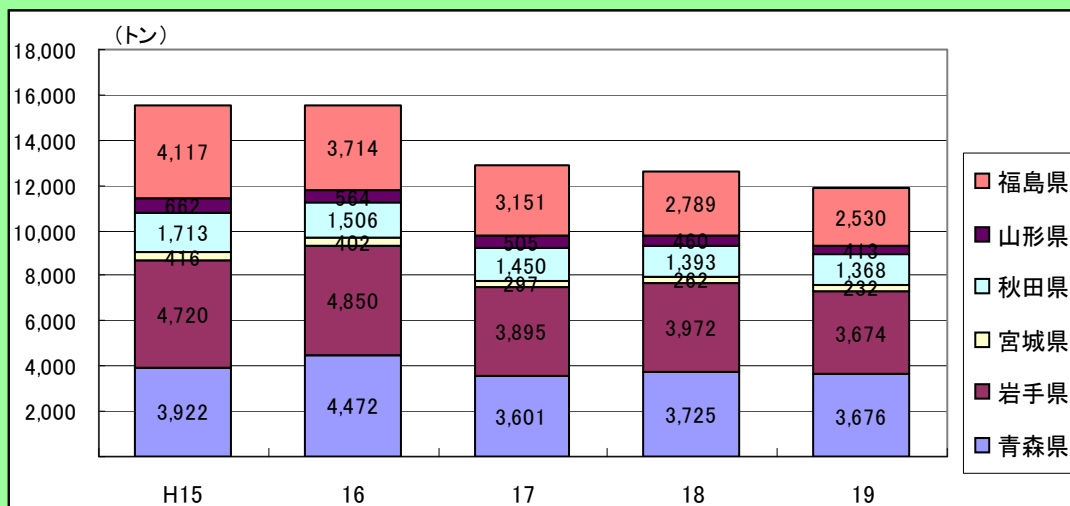
葉たばこ収穫面積の推移（東北）



資料：日本たばこ産業株式会社調べ。

図Ⅱ-21

葉たばこ収穫量の推移（東北）



資料：日本たばこ産業株式会社調べ。

### ウ ホップ

#### 東北は国産ホップの98%以上を占めている

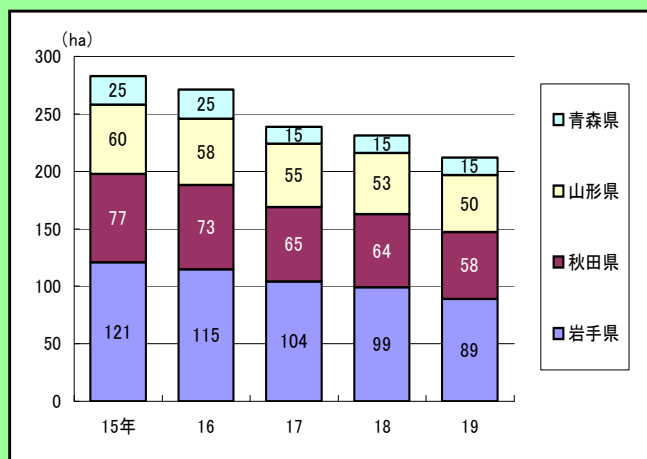
ホップの栽培は、東北（青森、岩手、秋田、山形の各県）と北海道で行われ、東北では19年産で212haと全国の栽培面積の98.7%を占めている（図Ⅱ-22）。シェアは岩手県が42%でトップとなっている。以下、秋田、山形、青森、北海道の順である。

収穫面積が減少傾向であることに加え、18年産は湿害、日照不足、病害等の影響、19年産は風害、病害等の影響があり、収穫量は18年産が408トン、19年産が405トンとなった（図Ⅱ-23）。

ホップは、各ビールメーカーとの契約栽培となっており、ホップの等級別買入価格は、11年産以降各社ともおおむね据え置かれているものの、平均買入価格（実績）は19年産では2,049円/kg（前年比83円、4.2%増）となった。また、ホップの自給率はここ数年9～10%で推移している。

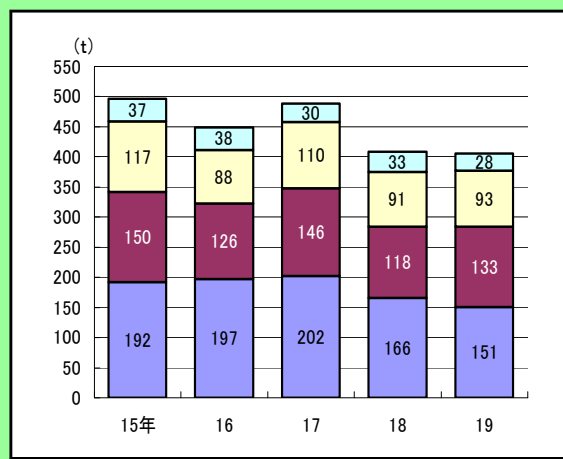
図Ⅱ-22

ホップ収穫面積の推移（東北）



図Ⅱ-23

ホップ収穫量の推移（東北）



資料：全国ホップ農業協同組合連合会調べ。